

薬

橙 (だいだい)



果実が落ちにくく、熟した果実をもがずに残すと、翌年の夏には緑色が戻り、冬に橙色に熟し、新しい果実とともに二年も三年も枝にとどまることから「代々」の意味で、子孫繁栄の縁起物として、正月の飾りには欠かせないものとなっている。原産地はインド北部で、日本には古く中国を経て渡来した。広く暖地にて栽培される常緑小高木。枝に刺をもち、5〜6月に芳香のある白い五弁花をつける。果実は甘味がなく、酸味が強いので生食はしない。皮でマーマレードをついたり、果汁を食酢に用いる。

橙をうけとめてをる虚空かな 上野春

薬用としては未熟果を9〜10月頃採取し、半切りにして天日乾燥したものを用いる。「枳実」といい、芳香性健胃、去痰、緩下剤として一日10gを水500mlで煎服する。また胸満、胸痛、満腹、腹痛を治す作用もあり多くの漢方薬に配合されている。

ダイダイの熟した果実の皮を乾燥したものを橙皮といいい一日3〜5gを煎服すると芳香性健胃薬となる。また橙皮で苦味チンキを作り一日に1〜5〜2ml服用してもよい。

草



苦味チンキの作り方

橙皮50g、センプリ5g、サンショウ5g、以上を70%エタノールに浸して1〜2とする。

日本で生まれた(福岡県浮羽)品種で、日本に栽培されるミカンの約90%を占める。暖地向きの常緑樹でミカン栽培で有名な中国浙江省温州の地名を借りたもの。果実が密のように甘い柑子(みかん)の意での蜜柑(みかん)といわれる。柑子はミカンの古名である。炬燵で囲らんと冬に味覚では欠かれない冬のヨロップでもミカンがつくられるようになり、スペインではマンダリンと呼ばれる。

蜜柑山の中に村あり海もあり 日野草城
ねむそうにむけるみかんが匂ふなり 長谷川春草

養正会薬局 (鍵山)



●煎じあげた湯を熱いうちにガーゼが、茶にして出す

漢方的養生法

不眠症

漢方療法

漢方で不眠症にあたるのに、「不寝」という項があり、次の様な処方がある。用いられる。

○酸棗仁湯：心身ともに疲れて、昼はウトウトして、夜に目が冴えて眠れないような人。

○加味帰脾湯：精神的疲労がもたらすノイローゼ気味になり不眠、健忘、ヒステリーなどを起こした時。平素から胃腸が弱く、貧血傾向にある人が多い。

○加味逍遙散：虚弱体質の婦人に多く、更年期障害や血の道症などにおける自律神経失調症による不眠症に適す。

○甘草瀉心湯：胃腸が弱く、みぞおちがつかえ、ゴロゴロ鳴り、神経が疲れ夢が多く、安眠出来ない人。

○柴胡加竜骨牡蠣湯：身体がガツツリしているが、気が小さく、驚き易く、イライラして、眠れない人。

○タマネギ：タマネギには神経をしずめる働きがあり、いろいろ食すると不眠症にも効果がある。

○シイタケ：血液の循環を良くし、体調をととのえ、眠りにつける。干したのもでも生でも良い。

タマネギ

タマネギ

ツボ療法

新しいツボで安眠、失眠、風池がストレス、不安に対するツボである。指圧や灸療法が良い。

○クチナシ：干したクチナシの実を5〜10gを一日量として煎じて飲む。

○梅干し：ウメ肉を一個分茶碗に入れた湯をよくほぐし、熱湯を注いで熱いうちに飲む。

○おぼあちゃんの知恵

カゼは万病のもと、よくいわれます。だからカゼを予防することはとても大切なことなのです。予防法として外から帰ったらうがいをする、どの乾燥が防げ、粘膜の抵抗力を維持するの役に立ちます。

薬剤師 高木 丈夫

人間は人生の1/3を睡眠で過ごしており、体にとってそれだけ大切なことなんです。それ故に眠れないのはつらうございます。不眠にはネギかタマネギを使つたらいかかします。使い方は、ネギを細かく刻んでドンブリにたくさん入れ、生ミソを加え、それに熱湯を注いでよくかき混ぜ、熱いうちに飲むとききめが残り、タマネギをみじん切りにして、お皿に平らにのせ、これを枕元においておいておきながら眠れば、ぐっすり眠れるといわれています。

おぼあちゃんの知恵

カゼは万病のもと、よくいわれます。だからカゼを予防することはとても大切なことなのです。予防法として外から帰ったらうがいをする、どの乾燥が防げ、粘膜の抵抗力を維持するの役に立ちます。

薬剤師 高木 丈夫

人間は人生の1/3を睡眠で過ごしており、体にとってそれだけ大切なことなんです。それ故に眠れないのはつらうございます。不眠にはネギかタマネギを使つたらいかかします。使い方は、ネギを細かく刻んでドンブリにたくさん入れ、生ミソを加え、それに熱湯を注いでよくかき混ぜ、熱いうちに飲むとききめが残り、タマネギをみじん切りにして、お皿に平らにのせ、これを枕元においておいておきながら眠れば、ぐっすり眠れるといわれています。

薬剤師 高木 丈夫

人間は人生の1/3を睡眠で過ごしており、体にとってそれだけ大切なことなんです。それ故に眠れないのはつらうございます。不眠にはネギかタマネギを使つたらいかかします。使い方は、ネギを細かく刻んでドンブリにたくさん入れ、生ミソを加え、それに熱湯を注いでよくかき混ぜ、熱いうちに飲むとききめが残り、タマネギをみじん切りにして、お皿に平らにのせ、これを枕元においておいておきながら眠れば、ぐっすり眠れるといわれています。

こどもの病気シリーズ

突発性発疹

どんな病気

突然熱が出て、それが下がると同時に全身にばらばらとした赤い発疹が出る病気です。

原因はヒトヘルペスウイルス6型、又は7型によるもの。はしかや水ぼうそうほど感染力は強くなく、また季節を問わずに発生します。生後6ヶ月から2才までの間によくかかります。初めての発熱がこの病気という子どもたくさんいます。

症状は？

突然38〜39度、時には40度近い高熱を出しますが、高熱のわりには元気で、熱が3〜4日後続いた後、急に平熱ぐらゐまで下がります。それと同時に翌日あたり、大小不規則な赤い発疹が出てきます。おなかや背中を中心に半日ぐらゐで全身に広がりますが、かゆみはあまり感じないことが多い。発疹が出て2〜3日後からは、だんだん薄くなって消えます。

ただし、このような典型的な症状が出るのは2人に1人の割合と言われます。ほとんど熱の出ない子や下痢をしたり食欲が落ちたりという別の症状があらわれる子もいます。

症状で診断できる病気なので、通常は検査は行いません。他の病気とまぎらわしい時は、血液検査や尿検査を行うことがあります。

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。

突発性発疹と診断が確定した後は、安静と水分補給に気をつけていけば、特に心配いりません。特別の薬なしでもよくなっていきます。合併症などを起こすこともほとんどありません。しかし熱が高いために眠りが浅くなったたり、水分が充分とれないような時は、解熱鎮痛剤を使つても、いいでしょう。ただ、解熱鎮痛剤を使つても、平熱までは下がらないことがほとんどです。薬の作用が切れれば、また熱が上がってしまいます。

解熱鎮痛剤は、つらさを和らげるつもりで使う薬なので、熱が少し下がっているうちに水分や睡眠をとらせるようにしましょう。

養正会薬局 薬剤部

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。

突発性発疹と診断が確定した後は、安静と水分補給に気をつけていけば、特に心配いりません。特別の薬なしでもよくなっていきます。合併症などを起こすこともほとんどありません。しかし熱が高いために眠りが浅くなったたり、水分が充分とれないような時は、解熱鎮痛剤を使つても、いいでしょう。ただ、解熱鎮痛剤を使つても、平熱までは下がらないことがほとんどです。薬の作用が切れれば、また熱が上がってしまいます。

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。



自宅でのケアは？

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。

突発性発疹と診断が確定した後は、安静と水分補給に気をつけていけば、特に心配いりません。特別の薬なしでもよくなっていきます。合併症などを起こすこともほとんどありません。しかし熱が高いために眠りが浅くなったたり、水分が充分とれないような時は、解熱鎮痛剤を使つても、いいでしょう。ただ、解熱鎮痛剤を使つても、平熱までは下がらないことがほとんどです。薬の作用が切れれば、また熱が上がってしまいます。

解熱鎮痛剤は、つらさを和らげるつもりで使う薬なので、熱が少し下がっているうちに水分や睡眠をとらせるようにしましょう。

養正会薬局 薬剤部

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。

突発性発疹と診断が確定した後は、安静と水分補給に気をつけていけば、特に心配いりません。特別の薬なしでもよくなっていきます。合併症などを起こすこともほとんどありません。しかし熱が高いために眠りが浅くなったたり、水分が充分とれないような時は、解熱鎮痛剤を使つても、いいでしょう。ただ、解熱鎮痛剤を使つても、平熱までは下がらないことがほとんどです。薬の作用が切れれば、また熱が上がってしまいます。

解熱鎮痛剤は、つらさを和らげるつもりで使う薬なので、熱が少し下がっているうちに水分や睡眠をとらせるようにしましょう。

養正会薬局 薬剤部

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。

突発性発疹と診断が確定した後は、安静と水分補給に気をつけていけば、特に心配いりません。特別の薬なしでもよくなっていきます。合併症などを起こすこともほとんどありません。しかし熱が高いために眠りが浅くなったたり、水分が充分とれないような時は、解熱鎮痛剤を使つても、いいでしょう。ただ、解熱鎮痛剤を使つても、平熱までは下がらないことがほとんどです。薬の作用が切れれば、また熱が上がってしまいます。

解熱鎮痛剤は、つらさを和らげるつもりで使う薬なので、熱が少し下がっているうちに水分や睡眠をとらせるようにしましょう。

養正会薬局 薬剤部

突発性発疹という確定診断ができるのは、熱が下がって発疹が出てからのことです。この間は他の病気の可能性も考えて、高熱、突発性発疹と決めつけず、熱が続いたら小児科を受診しましょう。特に生後4ヶ月未満の赤ちゃんの発熱や、5日以上続く熱には他の重い病気のこともあるの注意が必要です。